

## 式辞

札幌保健医療大学保健医療学部看護学科

第七期生百一名、栄養学科第三期生三十五名の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

コロナ禍の中、学業生活を支えてこられ、本日も三年振りにご臨席いただきありがとうございます。皆様をはじめ御来賓の皆様、また、実習や演習にて指導していただいた諸先生方、そして皆さんを陰日向絶えず叱咤激励してきました本学教職員など全ての方々の方々の支援により、大学生活を締めくくる最後の式典を無事に挙行できたことに心より感謝を申し上げます。

思えば四年前、皆さんは、大学生活への限りなき大きな期待と医療専門職者になるという人生最大の目標を抱きながら本学看護学科、栄養学科に入学しました。日々の講義、演習、実験、基礎実習など高校までの教育体制や教育内容とは一変した大学生活一年目を体験し、二年目への期待を膨らませていた矢先に、新型コロナウイルスによる感染拡大が日本全国に波及し、緊急事

態宣言の発出に伴って大学も登校禁止となり、五月中旬からは遠隔授業へと、想像だにできなかった大学生活がはじまりました。しかし、これは次なる感染拡大へのプロローグに過ぎませんでした。

三年次には新型コロナウイルスの変異株が次から次へと襲来し、その度に緊急事態宣言の発出と解除が繰り返し替えられました。座学はすべてリアルタイムの遠隔授業に切り替わり、臨地実習は学内実習やウェブ実習に振替えられました。遠隔授業日は一日中、自宅のパソコン画面に一人でじっと対峙せざるを得ないストレス過重状態が続きました。学内実習や実験などにおいても不織布マスクの上にフェイスシールドの装着を余儀なくされ、楽しかったはずの友人と一緒にの昼食もパネル越しの黙食に甘んじました。夢に見た大学生活で何故このような、つらく不自由な生活を強いられ、自己の不遇さを何回も自問自答した学生さんが多かったことと思います。

せめて最後の一年間は本来の大学生活を取り戻したいという願望も空しく、四年次の今年度はそれまでの感染力を大きく上回るオミクロン株の

出現により感染収束への願いは叶いませんでした。しかし、感染の爆発的拡大とは裏腹に、重症化リスクの低下が明らかになり、感染対策を十分に講じた上で、対面授業や制限下での臨地実習などが最後の四年次にようやく復活しました。

このように、皆さんは四年間の大学生活のうち三年間も新型コロナウイルスと共に過ごし、未曾有のパンデミックの影響を最も強く受けた学年でした。このような逆境にも関わらず、本学の教育理念である人間力、すなわち不断の努力と粘り強い忍耐力を発揮して幾多の高いハードルを乗り越え、国家試験受験も果たして本日の卒業証書・学位記授与式に臨み、大学卒業という安堵感と共に何か完全に満たされない達成感など複雑な感覚に浸っているのではないかと思います。

来月から皆さんは、看護師又は保健師、管理栄養士・栄養士として医療施設や保健所、教育機関、給食センター等で医療専門職者としてのキャリアをスタートさせます。これから四十年以上にも及ぶ実務経験の中では、今回のような感染症アウトブレイクに再び遭遇するであろうと思

ます。その際には学生の立場ではなく、看護・保健ケアまたは食ケアのプロフェッショナルズとしてこれらの最前線に直面することになります。その意味では、学生時代にパンデミックを経験し、感染防止対策の基本を実践したことは大きな力となるはずです。

とはいえ、恐らく皆さんの多くは、パンデミックを経験したメリットよりも、臨地実習等の経験不足の方に非常に大きな不安を抱いていることと思います。しかし、皆さんを受け入れる医療施設などは皆さんの状況を十二分に承知しており、従来とは異なる充実した新人研修プログラムを必ず準備しているはずです。最も重要なことは、どのようなプログラムであれ、それらにどのような姿勢や態度で真摯に取り組むかということです。

「鉄は熱いうちに打て」という言葉があります。西洋のことわざを直訳したのですが意味は同じです。皆さんは、数か月に及ぶ国家試験勉強に寝食を忘れて没頭したと思います。四年間の学業成果を短期間で集中して確認したはずですので、今の皆さんはまさにオレンジ色に輝く熱い

鉄の塊状態であると想像できます。この鉄の塊をどのような形に成型するのかは、これからの数年いや最初の一、二年で殆ど決定されるといっても過言ではありません。

初期研修をどのような態度や意識で臨み、真摯に取り組むかが、皆さんが将来どの様な医療専門職者に成長するのかを左右するのです。

もう一つだけ皆さんに是非お伝えしたいメッセージがあります。それは、「常にポジティブ思考」ということです。人生百年、山あり谷ありの連続です。過去のことについてまでも拘泥しては前進できません。うまくいくこともあれば失敗もあるのが人間です。過ぎ去ったこと、起こってしまったことは決して元に戻すことはできません。失敗を振り返り、それを糧に何倍も大きくなれば、失敗は失敗で終わらず成功の元になります。つらくて困難な仕事に直面しても、それを自分に与えられた成長のための試練とポジティブに捉え、それをやり遂げた時の達成感や成功体験を先取りし、楽しいことが待っていると思えば、仕事のつらさも半減します。ネガティブ思考によるストレス

増大は免疫力を低下させ、感染抵抗力を弱めま  
す。ポジティブ思考を維持するためには、考え方  
だけでなく自分独自のストレス解消法やリラック  
ス術を確立しておくことも非常に有効です。

皆さんと札幌保健医療大学とは卒業と同時に  
縁が切れることは決してありません。本学の同窓  
生として皆さんの活躍を常に見守っていますので、  
皆さんが本学を必要とするときは躊躇せずにいっ  
でも連絡をして下さい。

本学の教育理念である人間力教育の下で四年  
間学んだ皆さんが、学校法人吉田学園札幌保健  
医療大学出身であることに誇りと自信を持って  
医療専門職者としてのそれぞれの道を歩まれる  
ことを心から祈念して学長式辞にしたいと思いま  
す。

本日のご卒業に改めてお祝いを申し上げます。

二〇二三年三月十五日

札幌保健医療大学 学長 小林清一